

(様式1)

平成23年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 010	提案機関名 畜産課
住所:横浜市中央区日本大通1 担当部署:調整グループ 電話番号:045210-4506 電子メールアドレス:minezaki.63e6@pref.kanagawa.jp	
担当者名 :峰崎 洋通 FAX番号:045-210-8850	
要望問題名 日本茶等茶系飲料粕の乳用牛、肉用牛への給与利用の検討	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模(面積、数量等) 】 ・未利用資源によるエコフィードについては、養豚業における利用が進んでいるが乳用牛、肉用牛ではとうふ粕等ごく限られたものでしかも少量の利用となっている。 ・とうふ粕については、一部試験が実施されているものの乳用牛については乳質や繁殖への影響が懸念されるとして利用が進んでいない。 ・そのため、TMR利用等の検討をお願いしているところであるが、他県でお茶柄の利用例があり、タンパク含量も高く利用性が高いとの報告もある。 ・お茶柄に関しては、県内に茶飲料を製造している工場が多くあり、大量に排出されている。 ・そこで、日本茶を中心としてお茶系飲料粕の飼料価値の確認と乳用牛等への利用性についてTMR等の利用方法を含めた検討をお願いしたい。	
解決希望年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター <input checked="" type="checkbox"/> ②畜産技術所 ③水産技術センター ④自然環境保全センター
備考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	農業技術センター畜産技術所	担当部署	畜産工学担当
担当者名:秋山 清 電話番号:046-238-4056 FAX番号:046-238-8634			
対応区分	①実施 ②実施中 ③継続検討 ④実施済 <input checked="" type="checkbox"/> ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可		
試験研究課題名 (①、②、④の場合)			
対応の内容等 茶系飲料粕は飲料工場から大量に排出され、高水分であるため長期保存が困難でしたが、乳酸菌やセルラーゼを添加してサイレージ化することで長期保存が可能となり、乳量30kg程度の搾乳牛や乾乳牛のTMR原料として利用できること、その嗜好性などから配合割合を制限する必要があることが報告されています。これらの成績は数週間、数頭の試験によるものであり、長期間給与した場合の影響については明らかではありません。一般に粗蛋白質含量が高いとされていますが、含量や消化率は原料の構成や製造方法により変動します。 当所において直ちに試験に取り組むことは困難ですが、他機関での試験研究成績や利用事例についての情報収集に努めます。			
解決予定年限	①1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内		
備考			